

項目		評価	評価の分析と課題	改善策・向上策
教育課程 生活教育	①個別プラン	A	・個別教育相談会前に提示し、相談会で丁寧によりとりしている。	・項目や記述内容について、検討・精選していく。 ・これまで同様に丁寧な提示と説明を行っていく。 ・プラン内容を確認し、授業づくりに生かす。
	②主体的に取り組める教育活動	A	・研究を中心にして授業改善や事例検討を進め、児童生徒が主体的に取り組める活動を設定できた。個々の学びの文脈に焦点を当てた研究の成果といえるのではないか。	・研究をとおして、児童生徒が主体的に取り組める活動づくりを継続していく。 ・より適切な教材や支援の在り方について検討する。発達段階に応じられる、また、系統性のある教材の計画的な導入を検討する。
	③情報共有	A	・相談会、各種おたより、連絡帳等で日頃の様子や行事等について伝えることができた。 ・連絡アプリ（コドモン）の活用が定着し、欠席連絡や緊急連絡がスムーズに行えるようになった。	・より効果的な情報共有の手段やタイミングについて検討し、保護者に説明する。 ・児童生徒の個々の実情に応じつつ、効率的な情報共有の仕方について検討していく。
生徒指導 保健教育	④安全教育	A-	・連絡帳や学校だより等をとおして、避難訓練についての実施内容を伝えることができた。その他、交通安全や保健の取組について、周知や実践が不十分だったところがある。	・発達段階に応じて必要な実践（交通安全、保健等）を学部で検討し、計画や実施内容を保護者に周知する。
	⑤情報教育	A-	・学習活動においてのタブレット端末の活用方法や内容、情報モラルについての情報発信が不十分であったと考えられる。 ・学部によっては、情報モラル教育の実施が難しかった。	・タブレット端末の活用方法や学習内容について、連絡帳や学部だより等で知らせる。 ・他機関や他校と連携して、タブレット端末等の情報機器の使用について、アプリ等の活用方法や、情報モラルについての情報収集を行う。
	⑥保健教育・食育	A	・保健教育・食育・運動などの取組は概ねよかった。 ・コロナ禍にあって、調理活動や運動量の確保がやや不足した。	・コロナ禍での調理活動や運動量の確保について、よりよい活動設定を検討し、実践内容について、各種おたよりや個別教育相談会等でお知らせする。
進路指導 キャリア教育	⑦キャリア教育	A-	・「キャリア教育」の具体的な内容についての周知がやや不足したと思われる。	・「キャリア教育」についての、意義や具体的な内容を検討し、学習会や個別教育相談会、進路相談会を通して発信する。
	⑧進路学習・進路指導	A	・コロナ禍の状況に応じた学習会や見学会、ケース会、生徒の実習などを実施できた。	・小学部段階から進路に関心を持てるように保護者学習会や見学会等の設定を継続していく。
教育相談・センター的機能	⑨教育相談	A	・保護者対象の各種相談会や、児童生徒対象のおしゃべりタイムの周知と活用が進んできたと思われる。	・各種相談会の継続・充実を図る。 ・児童生徒対象のおしゃべりタイムについて、より有効な情報共有の方法・内容を検討していく。
地域交流 インクルーシブ教育	⑩地域交流	B	・コロナ禍の状況に応じた交流活動を模索し、各学部の実情とニーズに合った活動を実施できた。一方で、コロナ禍以前の状況と比較して、対面での学校間交流や居住地校交流、虹の市などの機会が減った分、不十分ととらえられる意見もあった。	・児童生徒の生活に関連づいた交流活動について、目的・方法・内容を検討し、計画・実践していく。コロナ対策をした上で積極的な地域交流を計画・実践していく。 ・交流だよりでの実践内容の報告を継続する。 ・地域の人材等を活用する方法を検討する。